

受理年月日	令和4年4月27日	所管委員会	福祉都市委員会
番号	4年陳情第10号		
件名	老人クラブに対する活動事業補助金について		
陳情者	早良区重留三丁目26-4 早良区入部校区老人クラブ連合会 会長 岩永 信行		
分割送付	なし		
要旨	<p>福岡市から各町内の老人クラブへ活動事業補助金として年間5万7,600円が支給されているが、その使途として飲食が補助金では認められていないため、個人からその都度会費を集めることになる。</p> <p>老人クラブの活動では、誕生会、花見、バスハイク、1泊旅行等娯楽の行事が多く、必ず飲食が伴うが、年金暮らしの老人が出費を伴う行事に積極的に参加することは難しく、このことが老人クラブ入会を阻害している要因でもある。</p> <p>老人クラブに社会奉仕活動の多くを期待しているとすれば、それは重荷であり、趣旨は理解できず、補助金の額があまりにも少なく、使途も限定されていることで、元気な老人が余生を楽しく仲よく暮らす構図にはなっていない。</p> <p>また、僅か5万7,600円を受給するためには、実績報告書と交付申請書を提出しなければならず、その手続が非常に煩雑なため、老人クラブにおける会計職の成り手がなく、入部校区老人クラブ連合会においても単位老人クラブから退会の要望がある。</p> <p>同様の問題は一校区老人クラブにとどまらず、福岡市全体での問題であると認識しており、このままでは早晩、老人クラブが消滅するのではないかと危惧される。</p> <p>また、福岡市が運営する福祉バスについても利用しやすいようにしてほしい。</p> <p>よって、以下の事項について陳情する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アルコールを伴う飲食は不可としても、せめて弁当代として1,000円までは認めるなど、老人クラブへの補助金の使途は限定せず、自由に使用すること。また、補助金の額も10万円に増やすこと。 2. 実績報告と計画は、活動事業別に月別ではなく年間一括とし、添付する領収書も活動事業別ではなく月別とするなど、活動事業補助金の報告、申請は簡便にすること。また、この補助金に係る国の制度を変えるよう国に働きかけること。 3. 福祉バスは1台で、現在コロナ禍で休止しているが、老人クラブの活性化のため、再開時には、利用希望の老人クラブが多い場合は臨機応変に台数を増やすこと。 4. 元気なお年寄りへのサポート体制については、乏しいように思われ、各区に存在する老人福祉センターでの趣味、娯楽で生きがいを求めることもできるが、場所的に遠いため、やはり住んでいる町で皆が仲よく楽しめる老人クラブは重要であり、行政としてバックアップする体制を整えること。 		

老人クラブに対する活動事業補助金に関する陳情書

令和4年4月22日

福岡市議会議長

伊藤 嘉人様

陳情者 住所 〒811-1101 福岡市早良区重留3-26-4

氏名 早良区入部校区老人クラブ連合会会長

岩永 信行

陳情の趣旨

福岡市から各町内の老人クラブへ活動事業補助金として年間57,600円が支給されているが、その使途として飲食が補助金では認められていないため、個人からその都度会費を集めることになる。

老人クラブの活動では、誕生会・花見・バスハイク・一泊旅行等娯楽の行事が多く必ず飲食が伴うが、年金暮らしの老人が出費を伴う行事に積極的に参加することは難しく、このことが老人クラブ入会を阻害している要因でもある。

老人クラブに社会奉仕活動の多くを期待しているとすれば、それは重荷であり、趣旨は理解できず、補助金の額があまりにも少なく、使途も限定されていることで、元気な老人が余生を楽しく仲良く暮らす構図にはなっていない。

また、わずか57,600円を受給するためには、実績報告書と交付申請書を提出しなければならず、その手続きが非常に煩雑なため、老人クラブにおける会計職のなり手がなく、入部校区老人クラブ連合会においても単位老人クラブから退会の要望がある。

同様の問題は一校区老人クラブにとどまらず、福岡市全体での問題であると認識しており、このままでは早晚老人クラブが消滅するのではないかと危惧される。

また、福岡市が運営する福祉バスについても利用しやすいようにしてほしい。

陳情事項

- ①老人クラブへの補助金の使途は限定せず、自由に使用することをお願いしたい。
アルコールを伴う飲食は不可としても、せめて弁当代として1,000円までは認めて頂きたいし、補助金の額も増やして欲しい(10万円)。
- ②活動事業補助金の報告・申請は簡便にして頂きたい。
実績報告と計画は活動事業別に月別ではなく、活動事業別に年間一括とすること。
また、貼付する領収書も活動事業別ではなく、月別とすること。



この補助金は国の制度と聞いているが、国の制度を変えるよう国に働きかけて欲しい。

③福祉バスは1台で、現在コロナ禍で休止しているが、再開時には利用希望の老人クラブが多い場合は臨機応変に台数を増やすことで、老人クラブの活性化につながるようにして欲しい。

やはり、会員を増やすためには魅力あるイベントが重要であり、福祉バスを利用し、遠出して楽しむことで会員以外にも参加を呼びかけ、入会の動機づけとしたい。

④元気なお年寄りへのサポート体制についてはそれが乏しいように思われる。

各区に存在する老人福祉センターでの趣味・娯楽で生きがいを求めることもできるが、場所的に遠いので、やはり住んでいる町で皆が仲良く楽しめる「老人クラブ」は重要であり、行政としてそれをバックアップする体制が求められる。

地域において、老人クラブが活躍することで地域が成り立っている面もある。

以上